

研究区分	教員特別研究推進 教育推進
------	---------------

研究テーマ	薬剤師のタスクシフト/シェアの推進を目指した 新たなワクチン接種への教育法の開発				
研究組織	代表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	内田 信也
	研究分担者	所属・職名	薬学部・講師	氏名	柏倉 康治
		所属・職名	薬学部・講師	氏名	三浦 基靖
		所属・職名	薬学部・助教	氏名	河本 小百合
		所属・職名	薬学部・特任教授	氏名	山田 浩
	発表者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	内田 信也

講演題目	薬剤師のタスクシフト/シェアの推進を目指した 新たなワクチン接種への教育法の開発
------	---

研究の目的、成果及び今後の展望	<p>医療技術の高度化への対応や、患者へのきめ細やかな対応に対するニーズの高まり等を背景として、これまでのスキルミックスの考え方に加え、タスクシェアやタスクシフトについてその必要性が注目されている（令和3年9月厚生労働省医政局長通知）。すなわち、医師やその他の医療職において、互いに専門領域を重ね合いながら医療を行うことの重要性は今後ますます高まると考えられる。従って、薬学部ではこのようなタスクシフト/シェアに対応できる能力を有し、医療現場において活躍する薬剤師の養成が求められる。</p> <p>新型コロナウイルスの流行をきっかけとして、薬剤師によるワクチン接種の必要性についての議論されている。実際に日本薬剤師会では現役の薬剤師を対象とした研修会が企画されている。また欧米では、予防接種は主に薬局において薬剤師により行われており、そのための教育は薬学部の課程に既に組み込まれている。薬局で薬剤師による予防接種は病院・医院での患者との接触機会を減じるという意味で感染制御の観点からも理に適っている。ワクチン接種には、感染症やワクチンの知識、接種に必要な解剖学的知識、投与手技、緊急時の対応など必要な知識・技能の習得が必要である。そこで本課題では、薬学部4年生を対象としたワクチン接種への教育法を開発することを目的とした。</p> <p>2022年9月から開講された薬学部4年生（84名、専修コース学生を含む）を対象とした実務事前実習において、薬物投与手技（実習12）として実習を行った。内容は、薬物の、A. 静脈内投与、B. ワクチンの皮下・筋肉内投与、C. インスリン自己注射、D. 吸入薬デバイスを用いた経肺投与、であり、項目Bを新規実習とした。まず、様々な参考図書、文献、インターネット情報等から投与手技の手順についてまとめた実習書を作成した。実技実習は、学生を2グループに分け、各グループ1日をかけて行った。まず午前中に1時間程度の講義を行った。内容は「薬剤師とワクチン投与」「ワクチン接種の際の薬局薬剤師の役割」「ワクチン接種に際して必要な事項」「ワクチン接種の実際」「ワクチン接種時に起こりうる事態」で会った。さらに午後に皮下・筋肉投与練習用のシミュレータを用いてワクチン投与手技実習を行った。学生の反応として「実際の実技を体験することができて貴重な体験であった」「必要となれば実施するハードルが下がるので良かった」が得られた。一方「時間が短かった」という感想も得られた。今後、実習内容を修正しつつ継続して実施する予定である。なお本実習の内容はNHKおよびPHARMACY NEWSBREAK等で紹介された。</p>
-----------------	--